



TOKUSHIMA PREFECTURAL INTERNATIONAL EXCHANGE ASSOCIATION

2026.09

発行／公益財団法人徳島県国際交流協会

## 理事長就任挨拶

公益財団法人徳島県国際交流協会  
理事長 玉田 直彦



本年7月1日から、新しく、公益財団法人徳島県国際交流協会理事長に就任しました、玉田直彦です。

これまで、36年間、徳島県庁で勤め、商工業の振興、消費生活の安定と向上、監査を公正に実施するための事務など様々な仕事に携わってきました。また、県を退職してからは、県立文学書道館で館長等を務めておりました。これまでの経験を活かし、少しでも皆様のお役に立てるよう頑張りますのでどうかよろしくお願いします。

ご承知のように、日本における在留外国人はここ数年増加傾向にあります。全国では令和2年末の2,887千人に対し、令和7年末は4,125千人と5年間で約1.4倍、本県においても令和2年末の6,627人に対し令和7年末は9,717人と約1.5倍に増加しております。

こうした中、国においては、令和8年1月に、我が国の法やルールの中で、国民と外国人の双方が安全・安心に生活し、共に繁栄する社会の実現を目指す必要があるとして、「外国人の受入れ・秩序ある共生のための総合的対応策」を決定し、取組を強化しています。

一方、本県においては、令和7年12月、徳島県に住む全ての外国人が円滑に生活し就労できるよう、日本語を学ぶ機会を拡充し、日本語教育を効果的・効率的に進めるため、徳島県における「日本語教育の推進に関する基本方針」を策定し、外国人に対する日本語教育を推進しています。

当協会においては、これまでも「日本語弁論大会」の開催や「あらそわ連」による阿波おどりを通じた国際交流、日本語教育や生活相談などを通じ、多文化共生の着実な推進や在住外国人の生活環境の充実に一定の役割を果たしてきたものと考えておりますが、近年では、本県で働く外国人のご家族も移住されるなど、新たなケースが増えてきていることから、当協会に寄せられる相談内容も多様化・複雑化しております。

今後とも、徳島で外国人が暮らしやすくなるよう、より一層包括的に、そして教育機関をはじめ、関係機関との連携を密にし、国際理解・多文化共生の各種事業を精力的に進めて参ります。

皆様方には引き続きご指導・ご協力のほどよろしくお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

# 2026年度 外国人による 徳島県日本語弁論大会



令和8年7月18日(土)、あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)にて、「2026年度 外国人による徳島県日本語弁論大会」を、徳島県及び(公財)徳島県国際交流協会の主催により開催しました。

今年度は、新たに「中高生の部」を設け、一般の部12名、中高生の部2名の計14名が、10か国から出場しました。

出場者の皆さんは、日本での生活の中で感じたことや、文化の違いから学んだこと、家族や地域の方との出会い、そして将来の夢など、一人ひとりが自分の経験や思いを日本語で発表してくださいました。どの弁論も、それぞれの歩んできた道や価値観が伝わる内容で、会場にいた多くの方が真剣に耳を傾けていました。

今年度から新設した「中高生の部」では、若い世代ならではの率直な思いや将来への希望が語られ、一般の部とはまた違った魅力を感じることができました。新しい部門のスタートにふさわしい、充実した大会になったと感じています。

ご来場いただいた皆さま、また、大会の開催にあたりご協力いただいた関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。



▲「中高生の部」出場者にインタビュー

▲出場者の皆さんと審査員・プレゼンターの集合写真



受賞結果はホームページに掲載しています



最優秀賞  
スピーチ

## 阿波藍で染められた自分

マイケル ガブリエル モラレス バルメヨ(フィリピン)

布を藍にゆっくり浸けて、引き上げて、優しくぎゅーっと絞って、そして空気に触れさせること。染める度に色が濃くなるのが特徴。これは藍染です。実は私は、去年、徳島へ到着したとき、白い布のようなものでした。徳島についてまったく何も分からなくて、友達や繋がり、アパートにも何もない状態でした。しかしそれは、私が阿波の世界へ入り、藍に染まるためのものでした。

2025年の7月に、私はJETプログラムの国際交流員として、徳島県へやってきました。新たな旅に出る楽しみやワクワク感と同時に、不安や孤独感などを抱えていました。初めて実家から離れたので、「一人で生活できるのかな」「猫ちゃんに会いたいなあ」というときはよくありました。それと、仕事で円滑なコミュニケーションをとりたかったのですが、職場で交わされる言葉が、なかなか聞き取れませんでした。ほれ、阿波弁やけん。パソコンが壊れたんじゃないかと、めげとったのですね。ほんまに大変でした。

徳島での新たな生活を送る中、阿波弁はもちろん、徳島のこと、特に阿波文化を少しずつ知ることができました。例えば、藍で開花したうだつの街並みを歩いて、江戸時代の徳島にタイムスリップしたかのように感じ、「税が上がらない」という表現の歴史を学びました。また、毎年、8月のお盆、徳島市内で開催される、400年以上の歴史を持つ、世界に誇る伝統芸能、阿波おどりに参加し、皆と阿波おどりの熱狂を分かち合いました。

さらに、徳島での活動を通して、グローバルな繋がりや輪がどんどん広がりました。県内でボランティア活動をしたり、交流会や日本語教室に参加したりして、多くの出会いに恵まれました。温かい地域の人々はもちろん、外国の方を含め交流したことがあります。まさに、出会いこそ人生の宝さがしだなあと感じました。皆のおかげで、徳島、日本だけでなく、新たな世界を知り、そして新しい発見をしました。それは、藍染のように、交流も何度



も繰り返すことによって、相手への理解を深めるとともに、友情の美しい色を生み出すということです。

現在、徳島には多くの外国出身の方、約9千人が暮らしています。色々な考え方、違う経験を持った人々です。生まれ育った環境や文化、国籍も話す言語もそれぞれです。しかし、これこそがお互いに共有していくチャンスであり、お互いを学ぶチャンスだと思います。新しく触れる考えや価値観が異なるからこそ、国際的視野を広げ、人間性を養うきっかけとなります。徳島の目指すダイバーシティ徳島、共生社会の実現、そして誰もが輝く未来を築くことにつながります。そのために、私たち一人一人の意識の底に響く働きかけが必要でその鍵を握るのは交流です。交流には新たな世界を開く力があります。

皆さん、その9千人の中に、かつての私のような白い布がいるかもしれません。新たな世界へ一歩を踏み出す勇気、自信、覚悟をまだ見つけていない、そんな誰かがいるかもしれません。もしいつか、皆さんの前に現れたら、どうか取り残さず、手を差し伸べてください。その一歩を後押ししてあげてください。そして、マイノリティでも、海外から来たゲストでもなく、社会の一員として、この徳島に居場所があるよと感じさせてください。鳴門の渦潮のように、周りの人を巻き込みながら、徳島で交流の輪を、あいを広げていきましょう。

(原文ママ)



## 夏休み子ども日本語教室「サマースクール」

今年も夏休み子ども日本語教室「サマースクール」を令和8年7月21日(火)から8月1日(土)までの間の8日間、徳島県国際交流協会で開催しました。中国、ネパール、フィリピン、ペルー、モンゴル、ガーナ、パキスタン、ベトナム、インドネシア、トルコ、日本など、計11か国にルーツを持つ小学生11名、中学生11名の合計22名が参加しました。例年は、小学生の参加者が多いのですが、今年は、中学生が半数を占めたことが特徴的でした。ここ数年、徳島県では毎年1,000人程度の在住外国人が増えており、それに伴い、外国にルーツを持つ子どもたちも増えていることが、今回の参加者の状況からもうかがえます。

教室では、まず1時間の個別学習からスタートし、日本語の勉強や夏休みの宿題など、それぞれが勉強したいことに取り組みました。その後は、全員で30分の全体学習。ゲームや歌などを楽しみながら、外国にルーツを持つ子ども同士、横の繋がりを深めました。

毎日の1分間スピーチでは、子どもたちが自分の夢や大切にしていることを精一杯、発表しました。7月25日には、当協会スタッフによる日本の学校生活についての簡単なガイダンスも行い、授業や行事の仕組み、学校でのルールなどを知ることで、今後の学校生活や進路を考えるうえでの一助になったことと思います。

子どもたちの中には、自分の意志とは関係なく、来日を余儀なくされる場合があります。言葉も分からず、話せる友だちもいない、何もかも分からない中で、新しい生活が始まります。そんな不安の中でも、一生懸命に日本語や夏休みの宿題に取り組む子どもたちの姿を見るにつけ、子どもたちが日本での生活を始める「最初の一步」をしっかりと支えていくことの必要性和重要性を改めて感じます。

同時に、毎年、子どもに寄り添い、サポートして下さるJTMとくしま日本語ネットワークの皆様へ、改めて感謝申し上げます。

子どもたちがこれからも元気に、それぞれが自分らしく、前向きに日本での生活を続けていけることを願っています。



8日間、がんばりました！



### 外国にルーツを持つ子どもたちのための **にほんご寺子屋**

日本語の勉強や学校の宿題、教科の学習、ゲームや絵本などを通して、楽しく学びます！

日本語・宿題・教科の  
学習をサポート！



わからないところを一緒に考え、  
一人ひとりに寄り添ったサポートします。

ゲームや交流で  
楽しく学ぶ！



ゲームやグループ活動で、楽しく  
日本語を使う機会や交流の場をつくります。

日本文化や  
体験学習も！



日本の文化や行事を体験し、  
理解を深めます。

参加無料  
体験参加  
できます！

いつ？

毎週日曜日  
13:30~15:00

どこ？

徳島県国際交流協会  
会議室  
(徳島駅クレメントビル6階)

お金は？

¥ 参加無料

体験は？

体験参加  
できます！

外国人のお知り合いや、外国にルーツを持つ子どもたちが  
いるご家庭に、ぜひお知らせください。

JTMとくしま日本語ネットワーク が運営しています。

お問い合わせ

☎ 088-625-8387

✉ jtmtokeu@nifty.com



## 阿波おどりでつながる、徳島の夏

徳島の夏といえば、阿波おどり！徳島県内には伝統ある有名連、企業連、学生連など多様な連があり、その輪の中には、徳島で暮らす外国人も参加しています。国籍も、言葉も、文化も違う人たちが、同じ音楽に合わせて踊る。最初は少し緊張していても、踊り始めれば、いつの間にかリズムに乗り、みんなで掛け声を掛け合いながら、心をつなげて踊る姿が見られます。

TOPIAでは、外国人住民が徳島の文化に触れ、地域の方々と交流することを目的に、「あそわ連」が毎年阿波おどりに参加しています。今年は8月14日(金)に、ブラジル、ベトナム、韓国、スリランカなど、さまざまな国にルーツを持つ外国人を含む約75名が参加しました。国籍や文化の違いを越えて、みんなで徳島の夏を楽しみました。

多文化共生というと、少し難しく聞こえるかもしれません。でも、「一緒に踊る」「一緒に笑う」という身近な交流も、その大切な一歩です。徳島で暮らす外国人が「徳島っていいな」と思えること。そして、日本人も「いろいろな国の人と一緒に楽しめてよかった」と思えること。そんな小さなつながりが、国籍や文化の違いを越えて、人と人が暮らしやすい地域をつくっていきます。

そして、今回の「あそわ連」の参加を支えてくださったのが、のんき連の皆さんです。踊りの練習から当日の演舞まで、丁寧にご指導いただき、あそわ連の参加者も安心して阿波おどりを楽しむことができました。言葉や文化の違いを越えて、一緒に踊る楽しさを伝えてくださったことに、心より感謝申し上げます。



## 新たに2つの地域日本語教室が開講

徳島県内では、外国人住民が地域で安心して暮らし、日本人住民と交流する場として、地域日本語教室が広がっています。このたび、鳴門市と神山町で新たに2つの教室が開講しました。

鳴門市では「鳴門国際交流会」が、第2・4日曜日に日本語教室を開催しています。日本語学習だけでなく、日本人との交流や地域とのつながりを求めて参加する学習者も多く、活動を通して交流の輪が広がっています。

神山町では「みんな・ふれんど・神山・Network」が、第2・4火曜日に開催しています。日本語を学びながら、外国人住民と地域住民が交流し、異文化理解や地域とのつながりを深める場となっています。

地域日本語教室は、日本語を学ぶだけでなく、人と人、外国人住民と地域をつなぐ大切な場です。徳島県内の教室については、チラシで紹介しています。ぜひご覧ください。

### 徳島県にある日本語教室



チラシの  
ダウンロードは  
こちらから

## 新規JETオリエンテーションを開催

徳島県からの委託を受け、令和8年8月18日(火)・19日(水)の2日間、新たに徳島県内で勤務を始めるJET(外国青年招致事業)参加者を対象としたオリエンテーションを開催し、35名が参加いたしました。

1日目は、JET参加者として知っておきたい「JET参加者の心得」について確認したほか、徳島で安心して生活するための生活オリエンテーションを行いました。また、日本語教室では、日常生活や学校でのコミュニケーションに役立つ日本語を学びました。

さらに、AJET(JETプログラム参加者の会)徳島の協力を得て、実際に小・中・高校で勤務する際の助言や注意点について話を聞きました。先輩ALTから具体的な経験を交えたアドバイスを受け、新しく着任したJET参加者にとって、これからの学校生活をイメージする機会となったと思います。

最後に、防災講座を実施し、地震や風水害など、徳島で生活するうえで知っておきたい災害への備えや避難について学びました。

2日目は、徳島ならではの文化に触れる体験として、藍の館で藍染めを体験しました。徳島の伝統産業である藍染めについて学びながら、実際に染めの工程を体験し、地域の文化への理解を深めました。

その後、防災センターを訪れ、さまざまな災害について学ぶとともに、災害時の対応や防災について体験を通して学びました。

2日間を通して、JET参加者は徳島で生活・勤務するために必要な知識を身につけるだけでなく、地域の文化や防災についても学びました。これから徳島の学校や地域で活躍する新しいJET参加者にとって、今回のオリエンテーションが徳島での生活を始める大切な一歩となりました。



## 災害に備えて、今できること



近年、熊本での地震や、大雨による内水氾濫など、全国各地でさまざまな災害が発生しています。「南海トラフ巨大地震」の発生が危惧される徳島県においても、災害への備えは重要です。特に、災害時に必要な情報を得にくい外国人住民への防災知識の提供や支援体制の整備が求められています。

TOPIAでは、外国人住民の方を対象に、地震や津波、洪水、土砂災害などから命を守るための基本的な情報を説明する「防災出前講座」を実施しています。また、外国人住民向けの「防災ハンドブック」を作成し、災害時に必要な情報や避難について分かりやすく紹介しています。

さらに、令和8年9月13日(日)には「防災センター・スタディツアー」を開催します。防災について体験しながら学ぶことができる機会です。ぜひ、お知り合いの外国人の方にもご紹介ください。

災害はいつ起こるか分かりません。いざというときに自分や大切な人の命を守るため、日頃から避難場所や避難経路を確認し、できることから備えておきましょう。

「防災センター  
スタディツアー」  
案内



「防災ハンドブック」が  
ここからダウンロードできます

## JICA徳島デスクのページ

JICA(独立行政法人 国際協力機構)は、日本のODA(政府開発援助)の実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。「信頼で 世界をつなぐ(Leading the world with trust)」というビジョンを掲げ、多様な援助手法を組み合わせ、最適な解決策を提供することで、開発途上国が抱える課題解決を支援していきます。

### あらそわ連の一員として阿波おどりに参加しました！

#### 〇8月14日の阿波おどりにJICA研修員と参加しました！

徳島の夏の風物詩「阿波おどり」に、JICA研修員11名が参加しました。研修員たちはそれぞれ四国大学、鳴門教育大学、徳島大学に所属しており、対面だけでなくオンラインでの練習も重ね、本番の日を迎えました。参加させていただいた「あらそわ連」の掛け声である「世界は一つ！あらそわれん！」に合わせ、国や文化の違いを超えて踊る姿がとても印象的でした。沿道の観客も手拍子や声援で応援、会場は一体感に包まれました。国が違っても、言葉が違っても、同じリズムに身を任せ、ともに笑い、ともに踊る。その光景は、人と人をつなぐ文化の力を感じさせるものでした。阿波おどりを通して生まれた交流は、互いを理解し合う第一歩となり、一つの輪の中で喜びを分かち合うことの尊さを改めて実感する、かけがえのないひとときとなりました。



(参加した研修員たち)

過去の出前講座や応募方法についての詳細は、JICA四国HPをご覧ください。

【お問い合わせ先】独立行政法人国際協力機構(JICA)四国センター  
〒760-0028 香川県高松市鍛冶屋町3番地 香川三友ビル1階  
電話番号:087-821-8824 ファックス:087-822-8870 メール:jicaskic@jica.go.jp

JICA四国 出前講座



### JICA海外協力隊2026年度秋募集の説明会を開催します！

#### 〇9月12日(土)に2026年度秋募集説明会を実施します

こんにちは！ジェバレコ！JICA徳島デスクの森田です。9月12日(土) 14:00から、TOPIA大会議室にて「JICA海外協力隊 2026年度秋募集説明会」を開催します！説明会では、JICA海外協力隊の制度や応募方法についてご紹介するだけでなく、今年8月に活動を終えて帰国したばかりの協力隊OV(経験者)3名にもご登壇いただく予定です。帰国ほやほやだからこそ聞ける、現地での暮らしや活動の様子、苦労したことややりがいなど、リアルな協力隊体験談を聞くことができます！「協力隊に少し興味がある」「いつか海外で活動してみたい」「行ってみたくけど不安もある」そんな方にぴったりの説明会です。どなたでもご参加いただけますので、ぜひお気軽にお越しください。お話を聞くだけでも大歓迎です！皆さまのご参加をお待ちしています！



(説明会申し込みQRコード)

イベント予定や過去のイベントについての詳細は、JICA四国 Instagramをご覧ください。

【お問い合わせ先】独立行政法人国際協力機構(JICA)四国センター  
〒760-0028 香川県高松市鍛冶屋町3番地 香川三友ビル1階  
電話番号:087-821-8824 ファックス:087-822-8870 メール:jicaskic@jica.go.jp

JICA四国 Instagram



JICA徳島デスクでは、いつでも皆さまからのお問い合わせをお待ちしております。

デスク: 徳島県国際交流協会(TOPIA)内/徳島県国際協力推進員 森田

TEL: 088-656-3303 Email: jicadpd-desk-tokushimaken@jica.go.jp

JICA四国HP: <https://www.jica.go.jp/shikoku/index.htm>

JICA海外協力隊の  
個別相談受付中



## 「とくしま外国人支援ボランティア会員」

**\*募 集 中\***

徳島県には約95か国、9,717人※（県人口の70人に1人）の外国人の方が住んでいます。加速する少子高齢化と労働者の不足により、今後ますますその数は増えていくことが予想されます。彼らが、この徳島で国籍などに関係なく生き生きと生活することができるよう、ボランティアになって支援していただきながら一緒に国際理解や多文化共生を推進していきませんか？

詳しくはとくしま多文化共生支援センターホームページの「ボランティア募集」をご覧ください。



※令和7年12月末現在

## TOPIA 賛助会員募集中

当協会では、当協会の趣旨と活動内容にご賛同いただける賛助会員を募集しています。賛助会員は協会の情報を優先して受けることができ、賛助団体は会議室の予約を3か月前から申し込むことができます。詳細は当協会まで。資料をお送り致します。

年会費 個人会員 一口 3,000円/年度  
団体会員 一口 10,000円/年度

## 国際理解教育を応援します

### 国際理解支援講師派遣

人とふれあい 人とつながり

**多文化理解&多文化共生！**

徳島県の国際化の進展に伴い、多文化共生に向けた県民の意識醸成や国際理解教育の推進を目的として、当協会では学校や市町村の機関が行う国際交流活動などに講師（県内在住外国人等）を派遣します。

### 国際理解支援講師募集中

～母国と日本の交流の架け橋となりませんか～

県内の学校や市町村の機関が行う国際交流のイベント等で、国際理解支援講師として日本語で母国の文化紹介などをしてくださる県内在住外国人の方を募集しています。興味のある方は、どうぞお気軽に当協会までご連絡ください。

## 徳島県外国人総合相談窓口



徳島県で生活する外国人のみなさんにとって、暮らしやすい地域社会であることを目指し、外国人総合相談窓口を開設しています。当協会では英語、中国語、ベトナム語のほか、たくさんの言語で対応ができますので、仕事、医療、子育てなど生活でお困りのことがございましたら、当協会に來所いただくか、お電話下さい。

**開 所 時 間:**10:00～18:00(年末年始を除く)

**場 所:**とくしま多文化共生支援センター  
(公益財団法人徳島県国際交流協会)

**多言語対応:**

(1)多言語(英語・中国語・ベトナム語)相談員の配置

(2)電話通訳システムの導入

(通訳事業者、行政機関も交えて4者間で相談できる)

**【対応言語】21言語**

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤インドネシア語 ⑥タイ語 ⑦マレー語
- ⑧タガログ語 ⑨ネパール語 ⑩ミャンマー語
- ⑪クメール語 ⑫モンゴル語 ⑬ポルトガル語
- ⑭スペイン語 ⑮フランス語 ⑯ドイツ語
- ⑰イタリア語 ⑱ロシア語 ⑲シンハラ語
- ⑳ベンガル語 ㉑ヒンディー語

(3)映像通訳システムの導入

(相談者・相談員と通訳者との対面相談に対応)

**【対応言語】8言語**

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤タイ語 ⑥ポルトガル語 ⑦スペイン語
- ⑧タガログ語

(4)対面式通訳機(ポケット)の導入(74か国語)

(5)多言語翻訳アプリ(ボイストラ)の導入

**相談専用TEL:** 088-656-3312

088-656-3313

**相 談 料 :** 無料(ただし、電話代は自己負担となります)

問い合わせ:公益財団法人徳島県国際交流協会  
〒770-0831

徳島市寺島本町西1-61 クレメントプラザ6F

開所時間:月曜日～日曜日 10:00～18:00

閉所日:年末年始

TEL: 088-656-3303

FAX: 088-652-0616

URL: <http://www.topia.ne.jp>